

【大雨・浸水・冠水に対する技術対策】

共通事項

被害があった場合は写真などに記録し、区市町村へ連絡する。

野菜

1 事前対策

- (1) 施設野菜では、施設内の湛水を防ぐため、排水溝の整備をしておく。露地野菜では、畝間に水が滞水しないよう畝溝をさらい、排水路へ接続しておく。
- (2) 収穫期に達しているものは、できるだけ事前に収穫する。果菜類は、摘果して着果負担を軽減し、根や草勢への負担を軽減させておく。
- (3) 降雨により、疫病、炭疽病、軟腐病等の病害が多発する恐れがあるので、薬剤の予防散布を行う。

2 事後対策

- (1) 土壌が乾いてから、根を切らない程度に軽く表面を耕し、株元に土寄せをすることで株を固定する。株が倒れている場合、無理して起こすと根を切ることもあるので注意する。
- (2) 薄めた液肥や尿素等の葉面散布を行い、根や草勢いの回復を促す。
- (3) 大雨後の晴天は、葉面からの蒸散が激しく、水分不足となりやすいため、必要に応じて灌水する。
- (4) 果菜類は、摘果して着果負担を軽減し、根や草勢の回復を促す。
- (5) なるべくきれいな水で茎葉に付着した土などを洗い落とすとともに、損傷した茎葉を適切に処分する。疫病、炭疽病、軟腐病等は降雨後に多発する恐れがあるので、速やかに薬剤散布を行う。
- (6) 栽培初期で折損や流亡のため欠株している場合は、補植や播き直しを行う。

果樹

1 事前対策

- (1) 土砂流入を防止するため、溝切り等の対策を徹底する。
- (2) 排水路の確保と点検を実施する。傾斜園地では、等高線上に排水路を設置し、速やかに排水されるようにする。
- (3) 幼木や若木、高接ぎ樹では、支柱を立てて枝折れを防止する。

2 事後対策

- (1) 土砂が流入した場合、株元周りの土砂を優先して撤去を行う。また、樹勢低下や落葉がみられる場合は、着果を制限して樹勢維持に努める。

- (2)倒伏した若木等は、土壌が乾燥しないうちに起こして、支柱を立て結束する。その際に根が切れないように注意する。枝が折れた場合は基部から切除し、殺菌保護剤を塗布する。軽度に枝が裂けている場合は、ひもで結束して癒合を促す。
- (3)大雨により病害の多発が心配されるため、防除指針に基づき適切な防除を行い被害の拡大を防ぐ。(ナシ：黒斑病、黒星病、輪紋病、ブドウ：褐斑病、黒とう病、晩腐病、かんきつ類：かいよう病、黒点病、キウイフルーツ：果実軟腐病 等)
- (4)樹勢低下が心配される場合は、液肥の葉面散布を行う。

花き類

1 事前対策

- (1)施設内の湛水や畝間の停滞水を速やかに圃場外に排水するため、排水溝を確認・整備しておく。
- (2)疫病、炭疽病、軟腐病等の病害が発生しやすくなるので、予防的に農薬散布を実施する。

2 事後対策

- (1)圃場に水が停滞している場合は、速やかに圃場外に排水する。
- (2)露地栽培では、土砂の跳ね上がりにより病害発生が助長されるため、土砂を洗い流し農薬を散布する。
- (3)降雨により流亡した肥料を補うため追肥を行う。その際に土壌を軽く耕して根に酸素を供給する。根が傷んで日中のしおれが回復しない場合は、液肥の1,000倍液を葉面散布し、草勢が回復してから追肥を行う。
- (4)施設内では、灰色かび病やべと病等の病害が多発するので、換気により温湿度を低下させるとともに、薬剤散布を行う。
- (5)曇天が続いた後に強い日射しを受けると、葉や花卉が日焼けしやすくなるので、寒冷紗等で遮光する。

農業機械

1 事前対策

- (1)屋根のある場所に移動またはシートをかぶせるなど、雨水に当たらないようにする。また、雨水がたまりやすい低い土地には置かない。
- (2)電気を必要とするものは、水がかぶらないように対策しておく。必要ないものは電源コードを抜き、ブレーカーを落としておく。

2 事後対策

浸水した農業機械や設備を、水抜きができていない状態で始動させると故障や事故(感電など)につながるので十分に注意する。販売店等に依頼し、動作確認を行う。